

IV 救 急 編

1 救急活動概況

当市は昭和39年7月の救急業務開始以来、社会経済活動の進展に伴い年々その体制が整備され、現在8救急隊（うち、1隊は白糠町消防事務委託）を運用し、市民の生命・身体を守る上で必要不可欠な行政サービスとして定着している。

そのような中、救急救命士制度の導入や救急隊員の行う応急処置等の範囲の拡大に伴い、全救急隊に高規格救急車の導入および救急隊員の教育訓練体制の整備を図るなど、救急業務の高度化の拡充に取り組んでいるところである。令和3年度からは「指導救命士を中心とした教育体制」の運用を開始。本部研修と連携した効果的な教育体制を確立し、救急隊全体のさらなるレベルアップを図る。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進し、より一層の救命効果の向上を目指す。

- ① 救急救命士の育成・・・有資格者数75人
- ② 市民による応急手当普及啓発活動の推進
「応急手当の普及啓発活動の推進に関する要綱」（H19.10.11施行）
- ③ メディカルコントロール体制の構築
釧路・根室圏メディカルコントロール協議会の設立（H15.3.26）
- ④ 医師による包括的指示下での除細動の実施（H15.8.1開始）
- ⑤ 気管挿管可能な救急救命士3名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H18.8.1開始）
- ⑥ 処置拡大2行為可能な救急救命士3名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H27.11.1開始）
- ⑦ ビデオ硬性喉頭鏡による気管挿管可能な救急救命士1名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H27.12.17開始）
- ⑧ 一般市民が行うAEDを用いた心肺蘇生法の普及に努め、救命効果の向上を図った。
- ⑨ 救急需要抑制対策として、市のホームページ、マスメディア等を活用し、救急車の適正利用をPRした。

2 救急に関する主な統計

令和2年の救急出動件数は9,403件、搬送人員8,576人で、前年に比べ出動件数においては919件（-8.90%）の減少、搬送人員においても1,049人（-10.90%）減少した。また、1日の平均出動件数が25.7件で、管轄区域内の住民約20人に1人が救急車を利用したことになる。

出動状況等、その他救急に関するデータについては表1から10のとおりである。

表1 年次別救急出動状況の推移（過去5カ年）

年別 区分	S39年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
出動件数	145	9,478 (467)	9,686 (498)	10,104 (528)	10,322 (520)	9,403 (490)
搬送人員	119	8,550 (423)	8,936 (442)	9,362 (467)	9,625 (447)	8,576 (450)
1日平均件数	0.4	25.9	26.5	27.7	28.3	25.7

※ 昭和39年は7月から業務開始。

※ ()内は白糠支署の出動件数及び搬送人員。

表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合

種別 区分	火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
件数	36	0	12	331	71	26	1,181	25	99	6,321	1,182	0	0	119	9,403
割合	0.4%	0.0%	0.1%	3.5%	0.8%	0.3%	12.6%	0.3%	1.1%	67.2%	12.6%	0.0%	0.0%	1.3%	100%

表3 月別救急出動状況

月 区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	906	796	828	731	688	745	808	774	727	791	767	842	9,403
搬送人員	840	736	748	673	631	675	726	692	673	716	704	762	8,576

表 4 曜日別救急出動状況

曜日 区分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	合計
日数	52	52	52	53	53	52	52	366
件数	1,425	1,313	1,345	1,297	1,424	1,321	1,278	9,403
1日平均	27.4	25.3	25.9	24.5	26.9	25.4	24.6	25.7

表 5 時間別救急出動状況と急病の状況

区分	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
件数	423	335	385	699	1,193	1,203	1,073	970	933	932	691	566	9,403
急病	316	270	308	561	849	710	599	558	579	647	510	414	6,321

表 6 年齢別搬送人員状況

区分	新生児	乳幼児	少年	18~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳以上	合計
人数	9	155	156	387	351	516	633	457	5,912	8,576
割合	0.1%	1.8%	1.8%	4.5%	4.1%	6.0%	7.4%	5.3%	68.9%	100%

* 年齢区分・・・新生児 → 生後 28 日未満の者
 乳幼児 → 生後 28 日以上～7 歳未満の者
 少年 → 7 歳以上～18 歳未満の者

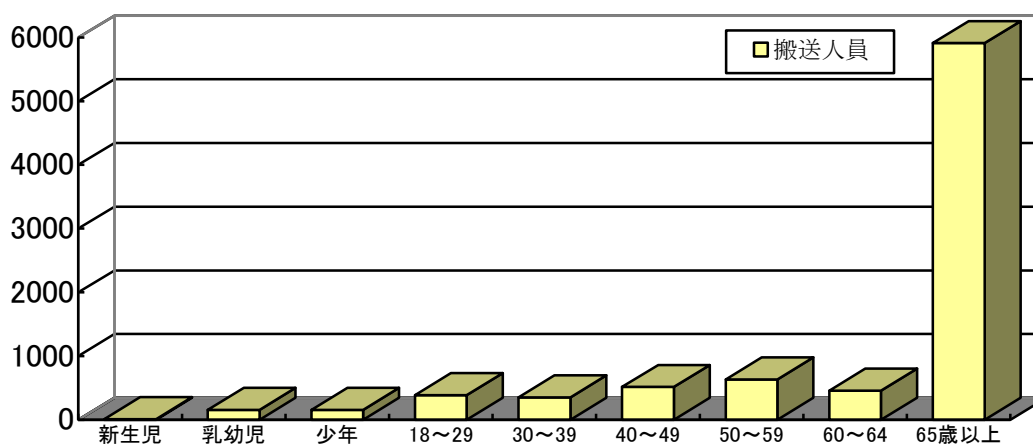


表 7 傷病程度別搬送人員状況

程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	201	852	4,324	3,198	1	8,576

※ 傷病程度区分

死 亡→初診時に死亡確認したもの

重 症→3週間以上の入院が必要なもの

中等症→入院が必要で重症に至らないもの

軽 症→入院を必要としないもの

その他→医師の診断が無いもの、医療機関以外へ搬送したもの

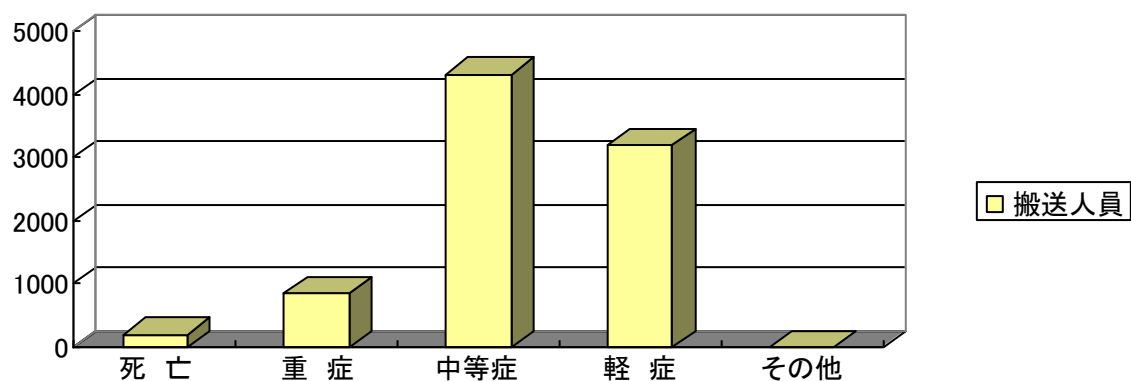


表 8 救急隊員が行った応急処置

応 急 処 置	件 数	応 急 処 置	件 数
止血・被覆	504	聴診	2,641
固定	387	血中酸素飽和度測定	8,364
人工呼吸のみ	58	心電図波形観察	4,100
心肺蘇生	217	除細動	15
酸素吸入	1,940	血糖測定	334
気道確保	353	器具を用いた気道確保 (特定行為)	127
異物除去	6	静脈路確保 (特定行為)	108
保温	45	薬剤投与 (特定行為)	62
在宅療法継続	558	ブドウ糖投与 (特定行為)	34
血圧測定	8,165	その他	8,382
合 計		36,400	

表 9 救命講習実施状況

区分	対 象	消防職員	消防団員	事業所	町内会	自主防 災組織	学校関係	団体 グループ	その他	合 計
		回数			2					2
上級救命講習	人員			3				19	22	
普通救命講習	回数		1	12		2	6	9	30	
	人員		4	48		40	94	42	228	
一般救急講習	回数			37			17	2	5	61
	人員			645			479	44	90	1,258
救命入門コース	回数							2	2	
	人員							19	19	
普及員・指導員 養成講習	回数	4		1					5	
	人員	5		4					9	
上級救命再講習	回数			2				2	3	7
	人員			3				8	4	15
普通救命再講習	回数			17		2	1	4	24	
	人員			87		16	1	9	113	
普及員再講習	回数							2	2	
	人員							4	4	
合 計	回数	4	1	71	0	4	24	6	25	135
	人員	5	4	790	0	56	574	71	168	1,668

表 10 過去5ヵ年の救命講習実施状況の推移

区分	年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
実施回数		299	282	291	312	135
受講者数		6,023	5,833	6,031	6,453	1,668